

F2-5

特定色を指定する「意味付与型」色彩ガイドラインの分析
—色彩の地域性に基づく、地域ブランディングの可能性に着目して—

Analysis of "Meaning-Giving" Color Guidelines that Designate Specific Colors and Proposal for Dissemination
-Focusing on Potential of Place Branding Based on the Regional Characteristics of Color-

○鈴木沙英¹, 二瓶士門², 佐藤慎也³
*Sac Suzuki¹, Shimon Nihei², Shinya Sato³

Based on an understanding of the diffusion status of meaning-assigning color guidelines, which are useful for regional branding and assign color names, etc., that express regional characteristics, and a new typology, we propose a method of diffusion. According to the nine organizations adopting these guidelines as of 2023, the reasons for adoption are creation of regional character, clarity, and conveyance, but regional branding has not shown the expected results.

1. 研究の背景と目的

歴史的な地区を有さない景観計画における色彩基準は、地域性が感じられない傾向があると指摘されてきた^[1]。一方で、地域ブランディングのため、色彩基準に加え色彩ガイドライン（以下、GL）を作成する行政団体、さらには民間が主体的に提案するGLも見られる。加えて、建築物以外の景観を作る要素を踏まえたGLもある^[2]。しかし、色彩基準やGLを一般の人々が知る機会は少なく、建築物の外観に行為の制限があることを知らない人も少なくない。

そこで本研究では、地域性の形成や地域ブランディングの視点から、色彩が重要な要素であると考え、色彩基準・GLの中でも、地域らしさを連想する地域資源名や日本の伝統色などの色名等を付与した特定色を指定する“意味付与型GL^[3]”の活用に着目する。平田ら^[3]は、意味付与型GLは地域住民が参加可能であることから、色彩を通じた発信・利用が誘発され、「環境」「特産物」「コミュニケーション」の3つの視点から地域ブランディングになる可能性を明らかにした。また、さまざまな地域の意味付与型GLを比較すると、策定経緯や副次的効果など実態に違いがあるとわかっている^[3]。しかし、既往研究から時間が経過しているため本研究では、2023年時点での意味付与型GLを再調査することで、普及状況の進展状況及び、新たな類型化から意味付与型を分析することを目的とする。

2. 研究の方法

平田(2013)^[3]の調査・分類方法と同様に、現在の景観計画数を調査し、2011年からの進展状況を把握する。次に、意味付与型GLの採用団体に対してアンケートを行い、策定経緯や副次的効果、課題点を整理する。

3. 色彩ガイドラインの分析

3.1 2011年と2023年の色彩基準・色彩ガイドラインの計画数とその類型化 (Table1)

2011年時点では314計画に対し、7つの型に類型化している^[*1]。意味付与型[7]は札幌市、東川町、沖縄市などの6計画であった^[3]。2023年時点では、759計画に増加しており、増減数と再類型化したものを示す^[*2]。[7]は、5計画増加していた。

Table 1. 2023 Classification by expression method of color standards/guidelines

	定性的表現		定量的表現	
	[1] 定性表現型	[2] 数値範囲指定型	[3] 色票範囲表現型	
範囲指定	123 (2011年から+30)	208 (+115)	289 (+145)	
	形容詞などを指定した文章による表現で示す 例：八王子市・下田市・奈良県	明度や彩度を文中、あるいは別表で表す 例：鎌倉市・鶴岡市	色相別の等色相断面を用い、指定する色票の範囲を枠線で囲む、あるいは、範囲内の代表色を色票で示す 例：世田谷区・足立区・出雲市	
特定色指定	[4] 特定色名・素材指定型		[5] 数値指定型	特定色指定
	色名	素材	[6] 数値付与型	[7] 意味付与型
	48 (+19)	28 (+20)	11 (+6)	61 (+55) 11 (+5)
	濃褐色・茶色、ベージュなどで示す 例：出雲市・津野町	木、漆喰などの素材で示す 例：鳥取市	公共物の指定色をマンセル値で定める 例：横浜須賀	特定の色票にマンセル値を足す 例：草加市・綾瀬市
			色票にマンセル値と色名を付け足す 例：札幌市	

3.2 11計画の意味付与型色彩ガイドライン

2023年時点では札幌市など11計画の意味付与型が見られた (Table 1)。意味付与型GLには、それぞれ策定経緯や副次的効果などの実態には違いがあるため、複数種の意味付与型が存在すると考える。次章において、アンケート調査により、意味付与型の採用理由や効果などを問い、タイプ分けを行う。

4. アンケート調査

4.1 アンケート内容

本論文では意味付与型GLを採用している9団体^[*3]を調査対象としアンケートを依頼した。アンケート項目は大きく分けて「自治体における色彩制限の意義」、

1：日大理工・院（前）・建築， 2：日大理工・教員・建築， 3：日大理工・教員・建築

「色彩制限範囲の決定方法」, 「意味付与型の採用理由」, 「効果」とし, Google Form を用いて選択式の設問を中心に自由記述欄も設ける形式で行った。

4. 2 アンケート結果の分析

意味付与型GLの採用理由

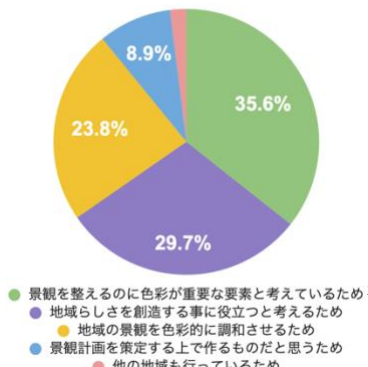


Figure 1. Reasons for adopting the semantic color guideline

色彩制限を行う理由を問い順位付けをしてもらう設問の回答では1番目の理由に選ばれたものを5pt, 二番目を4pt とポイント順位付けを行ったところ, 「景観を整えるのに色彩が重要な要素と考えているため」「地域らしさを創造することに役立つと考えるため」が上位という結果になった (Figure1)。ここから, どの団体もそれぞれの地域らしさを創造するために色彩制限を行っている」と推察される。次に, 意味付与型 GL 採用理由を問う設問では, 住民への明快性や伝達性を重視している回答が目立った (Table2)。その中で「色彩の世界を楽しみ, 札幌の街を色彩から考えるきっかけに(札幌)」と「地域らしさ」に踏み込んだ回答も見られた。意味付与型 GL による

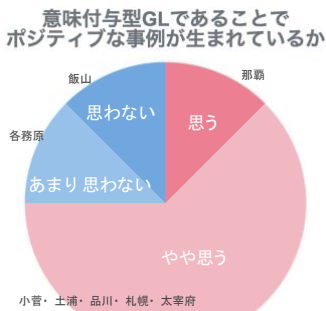


Figure 2. The existence of positive examples (N=8)

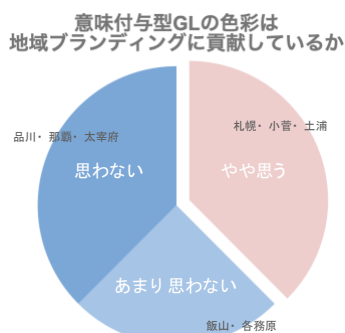


Figure 3. Contribution to local branding (N=8)

ポジティブな事例が生まれているかを問う設問では「そう思う」よりの回答が5団体である (Figure2)。しかし, その後の肯定的な効果を問う設問において那覇市のみ強く効果があるとしているが, その他の団体はあまり効果がないと回答 (Table2)。3つの各ブランドへの波及効果を問う設問では全体を通して, 効果がないと回答 (Figure3)。

結果として, 地域資源の周知など全体的に一定の効果があるが, 地域ブランディングへの効果に関しては, 団体側は有効性を実感できていない (Table2)。

5. まとめ

3章では, 2011年から意味付与型 GL は5計画増加していることがわかった。4章では, アンケート調査から意味付与型 GL を6タイプあることがわかった, また, 地域ブランディングへの効果が限定的であるという課題が明らかとなった。

今後, 団体が導入を検討するための意味付与型 GL のタイプがわかる Yes/No チャートを作成することで意味付与型 GL の普及を促すことができると考える。

参考文献

- [1] 杉山朗子: 「地域色を把握するための方法論に関する一考察」, 日本色彩学会誌, 第43巻, 第3号, pp. 59-62, 2019
- [2] 平田徳恵, 岡村祐, 川原晋: 「地域ブランディングの視点からの色彩ガイドラインの組み立ての可能性-札幌の景観色70色を事例として-」, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 301.302, 2011.8
- [3] 平田徳恵, 岡村祐, 川原晋: 「景観色彩ガイドラインの活用による地域ブランディングの可能性-特定色を指定する「意味付与型」の表現方法に着目して-」, 日本建築学会計画系論文集, 第78巻, 第685号, pp. 663-671, 2013.3
- [4] 豊島区 HP: 「豊島景観計画」 pp. 123, 2022
- [5] 国土交通省 HP: 「景観法の施行状況」, 2023.3

注釈

- [*1] 類型化された7種類に説明については表1を参照
 [*2] 1つの計画内で複数の表現方法が見られる場合は, 全てにカウントしている
 [*3] 「栗山の色」や「かごんまの色」は民間主体のものであるため, アンケート対象外としている。また無回答が1団体であった。

Table 2. Meaning-Giving in 2023 and Survey Results

	概要			意味づけ	タイプ(仮)	アンケートの回答 (一部抜粋)				
	計画名	策定年	主体			意味付与型GL採用理由	色彩の街への利用	周知や共有の可否	住民の景観意識向上	住民の参画雰囲気
札幌市	「札幌の景観色70色大規模建築物等色彩景観ガイドライン」	2004	行政	地域のイメージを連想しやすいキャベツ色などのオリジナルの色名が70色	札幌タイプ	市民の心に留めておけるように名付けており, 色から言葉へ, 言葉から色へ色彩の世界を楽しみ, 街を色彩から考えるきっかけにしたいから	○	○	○	○
栗山町	栗山の色	2019	民間	住民とWSを行い, にごり酒色など栗山に馴染みの深い言葉	民間主体タイプ	アンケート対象外				
土浦市	土浦市景観形成ガイドライン	2013	行政	旧城下町調和する色使いを心がけ, アクセントカラーに伝統色と色と名前	アクセントカラー 伝統色タイプ	色に対してイメージしやすくなり, 親しみが持てることのできるため	×	△	○	○
足利市	足利市景観形成ガイドライン	2019	行政	アクセントカラーに対して弁柄色などの8例の伝統色	アクセントカラー 伝統色タイプ	無回答				
品川区旧東海道品川宿地区	品川区景観計画	2012	行政	建築物は重複するが3地区で黒色など95つで, 広告物はアクセントカラーにたばこ色など地域に関わる9つの伝統色	推奨色提示タイプ	色の名前を明記することで, 伝統色であること・色の意味等が伝わるため	○	△	△	×
小菅村	小菅村源流景観計画	2015	行政	ポイントで使う看板類に使う色は, イメージカラーの青などの5色の「小菅カラー」	イメージカラータイプ	無回答	○	○	△	○
飯山市	飯山市風景づくりガイドライン	2015	行政	風景づくりのおすすめてとして6地区に伝統色10色ずつ	推奨色提示タイプ	名称をつけることで色をイメージしやすくするため	△	○	○	×
各務原市	各務原市色彩ガイドライン	2009	行政	6風景に合う色として生成り色など3色ずつ	推奨色提示タイプ	それぞれの地域で独自に形成されてきた景観のイメージを具体化するため	○	○	○	△
太宰府市	太宰府市景観計画	2011	行政	歴史的建造物の素材に調和する色彩としておすすめての色に対して万葉色名	素材名こだわりタイプ	古来からある伝統採食の呼称を「市のおすすめて」として紹介したため	△	△	△	△
鹿児島	かごんまの色◎	2021	民間	大学主体で住民と協働し地域資源を20色	民間主体タイプ	アンケート対象外				
那覇市	那覇市タウンカラースタンダード	2003	行政	まちづくりとして重要視している素材の色「コラルホワイト」を1色	イメージカラータイプ	基盤となる要素に共通性を持たせ, 統一感をつくり, 那覇らしい色を提示するため	◎	◎	◎	◎